
爪縁反射の活用

患者: S T 子(長期治療、5年前から)(78歳)

概要

問診

右ひざがとても痛くて、夜中からで今も痛い。それからその下がった(明け方)。
つたとき、左腕そとがわ(尺側)が肩から手までとても痛かった。そして右薬指が痛
かった。
頭の左、耳の後ろ、上がいつも痛い、さわると。

治療のポイント

①本人の説明で今日のポイントはすでに指摘されている。まずは頭の治療を左上肢によるべきこと、である。ただしこれまでの経過、ひどい足指(次ページ図)、手指の実情から、母指入爪縁、第一関節甲側を主の反射点とする。予想通りよく反射する。

次に、左腕のポイントとして、三角筋の起始、尺骨手根屈筋起始周囲、を同じく母指入爪縁で解放する。

②右薬指を反射点とするいくつかのポイントを治療。

すなわち、三角筋、上腕三頭筋。

このとき、腕の自律振動が生じた。タッチ域、押圧(主に爪の先による)ポイントを微妙に変えて振動の様子を見ていく。母指入爪縁でも同様な現象が起こる。

幾つかの指を使い、振動は5分ほど続いた。

③右膝内側の足の母指入爪縁(小指側)による解放。

このとき、股関節開閉の自律振動が生じた、およそ3分。

④左薬指による肩をタッチしての振動の誘導、3分。

⑤前屈テストで背中中の張りを確認し、

右腰、背→右薬指甲

左腰→左薬指甲

⑥立ち上がりの膝の痛さを確認して、

右下腿ふくら→右薬指甲

これで立ち上がりが滑らかになった。



この間、心窩、腹、下腹と次々に違和を訴えたが、上記の治療で解消してしまった。